

## 教師教育コンポーネント

# 第一回教師教育シンポジウム

9月22日（月）～23日（火）の2日にわたり本プロジェクト（CREATE）主催の第1回教師教育シンポジウムがヤンゴンのダイヤモンドジュビリーホールにて開催されました。このシンポジウムでは、ミャンマーの新しい教員養成課程の検討に資するよう、教員養成にかかる国際的な潮流や動向についての情報提供を行うとともに、参加者から将来的な教員養成カリキュラムに対する意見を聴取しました。1日目は岩田康之氏（東京学芸大学）、小野由美子氏（鳴門教育大学）、牟田博光氏（IDCJ）の3氏による講演と意見交換、2日目はミャンマーの現行教員養成課程の分析結果の発表と討議が行われました。

### 【第一日】

一日目のプログラムは教育大臣の出席のもと、南ミャンマー高等教育局局長と JICA ミャンマー事務所長による開会挨拶で開始されました。議事は次のとおり進められました。

#### 教員養成校のアップグレードにむけた戦略

- 教員養成校の位置づけ（教員養成校は職業訓練校であるか、高等教育機関であるか）
- 教員のコンピテンシーに基づいた4年制教員養成カリキュラム
- より実践的なプログラム
- 4年制への移行時期
- 制度移行期の教員不足への対応



議論のポイントを説明する  
増田教師教育チームリーダー

#### 留意すべき視点

- 長期ビジョンに立った計画策定
- 変動する教員の必要数に柔軟に対応できるシステムの構築
- 全ての教育レベル（小・中・高）の教員の地位の公平化：そのためには、現行の昇進・昇給と小→中→高への異動が連動する制度の見直しが必要
- 改革後の実施段階の重要性

岩田氏からは、東アジアにおける教師教育カリキュラムと質保証制度の開発の歴史と潮流について、小野氏からは、4年制教員養成プログラムについて、牟田氏からは、教員需要予測に基づいた教員養成制度の策定について発表がありました。その後、参加者を交えて活発な議論が行われ、以下の点についておおむね合意が得られました。

- 当面の教員不足に対応するためには、2014年に開始された Pre-service Primary Teacher Training Course (PPTTC)の拡充が必要
- 短期教員養成プログラムでは十分でないので、現職教員研修を充実させるべき
- 教育実習については、指導教官によるフィードバックを充実させる等の改善を行うべき
- 現行の教員養成校カリキュラムは教科が多すぎて学生が学習内容を消化しきれない傾向があるた

め、カリキュラムを整理するとともに、柔軟性をもたせることが望ましい

この他には次のような意見がありました。

- 教員養成校の増設や既存校の拡張により学生数を増やすべき
- 日本のようなオープンシステム（教員養成学部以外の学生も教職課程を履修することで教員免許を取得できる制度）を導入することも考えられる（この意見については、「教員は教員養成を専門とする教育機関で養成されるべき」との強い反対意見もありました）
- 軍政下で設置されたシステムであり、運営面、質の面で根本的な問題がある（ただし、「短期的には現存のシステムでいかに成果を出すかを考えるべき」とする意見もありました。）

## 【第二日】

二日目は、CREATEの教師教育チームから、教員養成校カリキュラム調査の中間報告が行われました。

同調査は、教員養成の現状を把握するとともに、改善にむけた提案を収集しとりまとめることを目的として、2014年8月にレグー、ヤンキン、ティンガンジュンの各教員養成校にて聞き取り、質問票調査および観察により実施されました。シンポジウムでは、CREATEから以下のとおり調査結果を報告しました。

- 教員養成校の教官および学生は教員養成の目的をおおむね理解している
- 教員養成校のカリキュラムは学習範囲としてはおおむね適切と考えられるが、全体の時間が少ない一方で教科数が多く学習時間が不足しがちなので改訂が必要
- 教科に関する科目のうち一部は学校現場での有用性が低いとの意見がある
- 付属校での実習を増やすべき
- 実習に際しては事前準備、実習中の指導、事後のフィードバックを充実させるべき
- インターネットへのアクセス、参考資料が不足している
- 補習の時間が限られているため適切な評価ができていない
- 現行の評価制度を見直すべき

参加者からは、調査対象とならなかった教員養成校の例やこれまでの取り組みをふまえた提案がされました。

こうした二日間の活発な議論は、ヤンキン教員養成校校長の閉会挨拶で幕を閉じました。また、シンポジウムの様子は現地の新聞やテレビニュースにも取り上げられました。

CREATEでは教師教育にかかるさまざまな機会を今後も提供する予定です。様々な経験を持つエキスパートが意見を戦わせることで、よりよい教員養成制度・教員養成課程が策定できると考えます。ミャンマーの次世代育成のために力を合わせましょう！



調査報告を行った CREATE 教師教育チームメンバー（左から、エー・エー・タン、ヌー・ヌー・イ、ウィン・ティンギ・チョー、ルエ・ルエ・カイン、ナン・マラー・タン）

